

令和6年度 誠英高等学校 学校評価書

令和7年03月31日

1. 学校教育目標	
校訓	至誠一貫 規律厳守 協同一致
教育方針	一人ひとりを大切に教育実践。 確かな学力と柔軟な精神力を身につけ、たくましく社会を生き抜く力を育む。

2. 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神を基に、学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを全教職員の適切な役割分担と連携に基づき、学校評価と関連付け行っていく。 ・家庭・地域社会との連携と協働を深めるとともに、学校間連携等により教育活動の活性化を図っていく。
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫を生かした特色ある教育活動を推進するとともに、アクティブラーニングの視点に立った授業改善を効果的・積極的に推し進めていく。 ・教育課題を明確化し、組織的かつ計画的に教育活動の質を高めていく。 ・教科等の目標や内容を見直し、社会が求める能力や資質の育成に向け、教科等横断的な学習の一層の充実を図る。そして、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的な対応ができる能力を育む。 ・多様な教育活動を通して生徒一人ひとりが確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を養い、生きる力・人間力を育む教育活動を推進するとともに、教育活動全体を通じて個々の生徒の特性等の的確な把握に努め、その伸長を図っていく。
運営組織	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌の見直しや平準化を図るとともに、組織的で効率的な校務運営に努める。
教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT化・情報化等に対応できる良質で質の高い教育環境の継続的な整備が必要。 ・人・モノなど教育環境整備に努めるとともに、学校施設の老朽化対策を計画的に行っていく。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全で保護者や地域に開かれた学校づくりを粘り強く推進する。
生徒の教育効果	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員がチームとして、それぞれの専門性を生かし連携・協働することで、最大限の教育効果を生み出していく。

3. 本年度重点を置いて目指す成果・特色・取り組むべき課題 (努力すべき目標)	
1 学習指導	基礎学力の不足を補う工夫と適切な授業展開と評価。 授業展開の工夫と他教科との連携の構築。 ICT環境整備に基づく、オンライン授業等の展開と充実。
2 生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識・ルール・マナーの向上。 いじめや偏見に対する適切な対応と教職員間の共通理解の徹底。
3 進路指導	進路指導の早期取り組みと個の希望に応じた適切な指導。 キャリア教育の充実。
4 特別活動	部活動の活性化と地域ボランティア活動・奉仕活動の推進。 生徒主体の活動推進と協働体制の構築。
5 業務改善	広報・生徒募集活動の充実と働き方改革の促進。 ICT環境整備に基づく業務の簡素化及び合理化、状況変化への対応。

4. 自己評価		()内は昨年度の数値			5. 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(実践活動)	評価基準	達成度	達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見等	評価
学習指導	基礎学力の不足を補う工夫と適切な授業展開と評価	学科・コース・専攻等の特性に応じた学習指導の展開	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	3.1 (3.1)	○昨年引き続き、概ね達成できた。 ○各学科・コース等の特性を踏まえつつ、主体的・対話的で深い学びを目指した取組みを継続展開。 ○専門分野の興味・関心付けは今後の研究課題。	全体的に昨年度と同様の数値を達成しているが、一部で数値が大幅に下がってしまった項目(ICTを活用したオンライン授業等の運用と展開)があることが気になる。来年度は、この項目を昨年度と同じレベルに戻すことを重点的に行っていく。 ・生徒それぞれの多様なニーズに合わせた学び直しや学習支援の実施をお願いします。 ・探究的な学びの充実により、学習意欲や進学実績の向上につながることを期待します。 ・授業研究会や研修会の積極的推進を。 ・ICTの効果的活用を。 ・達成状況の診断分析を見る限り、達成度が低い項目は、職員の研修の積み重ねにより改善されるように思う。ICTを活用したオンライン授業の運用と展開については、まずできることから必ず実施することが大切。	A
		学び直しと学習能力に応じた適切な指導	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	3.0 (3.0)	○昨年引き続き、概ね目標達成できた。 ○基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養っていく必要がある。 ○生徒の学習習慣が確立する取組みを継続実施。		
	授業展開の工夫と他教科との連携の構築	適切な授業評価の実施と評価の効果的な活用	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.8 (2.9)	○昨年と比較し、0.1ポイント低下。 ○評価の場面や方法を工夫しながら指導の改善に繋げ、学習意欲の向上を目指す取組みを継続実施。 ○指導と評価の一体化に向け継続的な取組みが必要。		
		教科の枠を超えた研究授業とより効果的な教授法・指導法の探究	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	1.9 (2.0)	○昨年より0.1ポイント低下。 ○学習基盤となる資質・能力育成の取組みを継続展開。 ○教育目標の実現に向け、教科等横断的な視点から関係機関等との連携を含めた研究推進が必要。		
	ICT環境整備に基づくオンライン授業等の展開と充実	適切な学習指導の展開	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	3.1 (3.0)	○昨年引き続き、概ね目標達成できた。 ○正確な状況把握により、効果的な学習方法を選択し的確に実行(迅速な対応)		
ICTを活用したオンライン授業等の運用と展開		4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	1.2 (2.6)	○昨年より低下、更なる改善が必要。 ○電子機器など教材・教員の適切な活用を推進。 ○オンライン授業改善点の洗い出しと運用技術向上などについては今後の課題			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識・ルール・マナーの向上	校則の正しい理解と運用	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.9 (3.1)	○昨年と比較し、0.2ポイント低下。 ○教育目標の実現の観点から教育的意義を共有し効果的な運用・継続的な取組みを継続実施。 ○時代の要請を踏まえ、校則の見直しを継続実施。	全体的に昨年度と同様の数値を達成している。来年度もこの数値を維持するよう努力してほしい。 ・社会人としての基礎的資質を身につけるとともに、「社会で許されないことは学校でも許されない」というスタンスでの毅然とした指導がされることを期待します。 ・指導が徹底されており、一社会人としての姿勢が身につけている。 ・全校体制で組織的に対応している。 ・生徒指導に対する教職員の意識、共通理解は進んでいるように思う。高校生の場合、卒業後には社会人になる可能性が高いと思われるので、社会性(集団生活におけるマナー)は大切だと思つて、培うための方策が必要。	B
		挨拶、言葉遣い、礼法、清掃活動の指導	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	3.1 (3.0)	○昨年と比較し0.1ポイント改善、概ね実践できた。 ○学校全体での取り組みが今後とも重要。 ○指導に当たって、具体的・系統的・継続的に進めていくことが大切。		
		規範意識と校外でのマナー向上の指導	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	3.1 (3.0)	○昨年と比較し0.1ポイント改善、概ね実践できた。 ○学校と地域・家庭との効果的な連携が求められる。 ○様々な教育活動を通じ、基本的な生活習慣を確実に身につけさせていく取組みを継続展開。		
		集団生活のマナーに関する指導	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.8 (3.0)	○昨年と比較し、0.2ポイント低下。 ○地域社会との連携のもと、社会の一員としての自覚を身につけさせる取組みを継続実施。 ○学年・分掌を横断した組織的な取組みが重要。		
	問題行動への適切な対応と教職員の共通理解の徹底	特別指導への適切な対応と事後指導の徹底	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.8 (2.7)	○昨年と比較し、0.1ポイント改善。 ○実態把握を的確に行い、指導内容や指導方法の工夫について、組織的・計画的な取組みを継続実施。 ○家庭との連携・協働体制づくりが鍵となる。		
	いじめの防止、早期発見、迅速対応、適切な措置の徹底	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	3.0 (2.6)	○昨年と比較し、0.4ポイント改善。 ○集団指導・個別指導により、生徒理解に努める。 ○課題未然防止教育、課題早期発見対応に心掛け組織的・系統的な取組みを継続展開。			

評価領域	重点目標	具体的方策(実践活動)	評価基準	達成度	達成状況の診断・分析	5. 学校評価関係者	評価
進路指導	進路指導の早期取り組みと学年や希望に応じた適切な対応	年次指導による段階的・系統的な指導	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.9 (2.8)	○昨年と比較し、0.1ポイント改善。 ○計画的・組織的・継続的な指導を継続実施。 ○キャリア教育の視点を踏まえ、社会的・職業的自立に向けた進路指導を継続展開。	昨年度と比較して、数値が上昇した項目と下落した項目が両方とも存在する状況である。平均的には上昇しているため、評価はAとした。来年度は数値が上昇した項目についてはそれを維持するようにして欲しい。同時に下落してしまった項目については、その原因を分析し、問題の解決を図ることで数値の改善を目指してほしい。 それぞれの生徒に寄り添った進路指導が進められていることに感謝します。 ・個別対応にとどまらず、組織的・計画的なキャリア教育が推進されるようお願い致します。 ・先を見通した指導の充実と、個に応じた対応が進んでいる。 ・高校における進路指導は、教育の根幹である。キャリア教育の全体像をきちんと確立して、もう少し力を入れるべきだと考える。特に、企業や大学等との連携は大切だと感じる。	A
		企業や大学等との連携、保護者を交えた指導	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.4 (2.7)	○昨年と比較し、0.3ポイント低下。 ○関係機関等との連携・交流を模索しつつ、その充実・強化を図ることが必要。 ○連携の強化・拡充に向けた取組みは検討課題。		
		個別面談、面接指導、論文指導、事後指導等、細やかな指導	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	3.4 (2.9)	○昨年と比較し、0.5ポイント改善。概ね目標達成できた。 ○多様な進路先への支援に向け、可能な指導をそれぞれの分野で粘り強く実践。 ○個に応じた細やかな指導を継続実施。		
		大学・専門学校訪問やインターンシップ等適切な進路指導	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	3.2 (3.0)	○昨年と比較し、0.2ポイント改善。 ○ガイダンス機能の充実による進路意識の醸成・向上を目指す。		
		キャリア教育に関する指導	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.5 (2.6)	○昨年と比較し0.1ポイント低下。 ○教育活動全体を通じ、キャリア発達を促すキャリア教育の充実に向けた取組みを継続実施。 ○家庭・保護者や地域との連携・協働体制が重要。		
特別活動	部活動の活性化と地域ボランティア活動・奉仕活動の推進	生徒への積極的な参加の呼びかけ	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.8 (2.8)	○昨年と同様、概ね達成できたが更なる取り組みが必要。 ○地域貢献・社会参加に関する活動を継続実施。 ○生徒主体の活動・参加意欲ともに高い。 ○集団・体験的活動の充実に向け取組みを継続実施。	昨年度と比較して、数値が上昇した項目と下落した項目が両方とも存在する状況であるが、その変化の割合は少なく昨年度と同様の数値であるといえる。全体的に良好な結果といえるが、一部に数値が低い項目もあるので、それらについては原因を分析し、来年度の数値の向上を目指してほしい。 ・生徒会や部活動などの組織的な活動により、生徒の地域貢献体験が推進されることを期待します。 ・校外での活動の場面を増やし、情報面をしっかりと発言しては、カリキュラムの工夫により、生徒の活動できる環境の整備を。 ・学校全体として、生徒を地域行事等に積極的に派遣する姿勢は、学校PRにつながるため、今後も続けて欲しい。随分良くなっている。 ・現在の若者は、総じて生徒会活動等には興味・関心が低いと思う。生徒が自分たちで楽しめる生徒会行事を増やす必要あり。	B
		指導計画や目標に基づいた指導と展開、向上を促す	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.7 (2.7)	○昨年と比較し、0.1ポイント改善。 ○生徒の個性や能力の伸長、協力の精神などの育成に向けた取組みを継続実施。 ○生徒減、指導者確保などは今後の検討課題。		
		集団活動を通じて規律やマナーの習得を目指した指導	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	3.0 (2.8)	○昨年と比較し、0.1ポイント改善。 ○生徒の自主的・実践的な態度の育成に努めるとともに望ましい集団生活の展開や望ましい集団の育成に向けた取組みを継続実施。		
	生徒主体の活動推進と協力体制の構築	生徒会を中心とする諸活動の企画・運営の充実	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.5 (2.6)	○昨年と比較し、0.1ポイント改善。 ○活動制限の中、企画・運営の練り直しとともに新たな企画への挑戦など知恵を出し合い協力し、課題解決しようとする活動を展開。	昨年度と比較して、数値が上昇した項目と下落した項目が両方とも存在する状況であるが、その変化の割合は少なく昨年度と同様の数値であるといえる。全体的に良好な結果といえるが、一部に数値が低い項目もあるので、それらについては原因を分析し、来年度の数値の向上を目指してほしい。 ・生徒会や部活動などの組織的な活動により、生徒の地域貢献体験が推進されることを期待します。 ・校外での活動の場面を増やし、情報面をしっかりと発言しては、カリキュラムの工夫により、生徒の活動できる環境の整備を。 ・学校全体として、生徒を地域行事等に積極的に派遣する姿勢は、学校PRにつながるため、今後も続けて欲しい。随分良くなっている。 ・現在の若者は、総じて生徒会活動等には興味・関心が低いと思う。生徒が自分たちで楽しめる生徒会行事を増やす必要あり。	B
		クラスや学年・科の枠を超えた活動と協力を図る	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.3 (2.2)	○昨年より0.1ポイント改善するも依然低い数値。 ○クラス移動が難しい中での活動の難しさに直面。 ○本校の特徴の一つである多様な学科・コースの特性を活かした取組みについては継続検討課題。		
学校行事等の計画的な企画、運営、反省の実施		4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.5 (2.5)	○昨年と比較し、0.1ポイント改善。 ○主要な学校行事については、工夫しながら運営。学校行事の意義を踏まえ取組み継続展開。 ○コロナ解除後、本格実施に向け検討中。			
その他	広報・生徒募集活動の充実と働き方改革の促進	広報活動、生徒募集活動の計画的な企画・運営	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.7 (2.8)	○昨年と比較し、0.1ポイント低下。 ○HP、各種説明会、体験学習、CM等様々な場面で効果的な情報発信を継続展開。 ○教育活動の好循環に繋がる取組みを継続実施。	一部を除き、低い数値にとどまっている項目が多く、改善が必要な状態である。昨年度から数値がさらに下落してしまっていることが気になる。すぐに改善できるようなものではないが、原因を分析し、少しずつでも毎年改善して欲しい。 ・高校の授業料無償化等の影響もあり、公立高校と私立高校の間の垣根が低くなっている現状を踏まえ、中学生に向けて貴校の多様な魅力を発信していただくことを期待します。 ・貴校教職員にとって、働きやすい環境整備や、授業改善への取組が推進されるようお願いいたします。	B
		教育活動全般を通じ、校訓の理念と精神への指導	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.2 (2.6)	○昨年と比較し、0.7ポイント低下。 ○様々な機会を活用し、建学の精神・校訓醸成に向けた取組みを強化・浸透に努める必要がある。 ○全校体制で意識共有を図った取組みを継続実施。		
		働き方改革、ハラスメント行為撲滅に係る取り組みはなされたか	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	1.6 (1.7)	○昨年と同様に、極めて低い。 ○ハラスメント研修を含めた服務規律の確保に向けた取組みが必要。 ○働き方改革は継続重要課題の一つ。		
	ICT環境整備に基づく業務の簡素化及び合理化とコロナ禍への対応	校内ICT施設・設備の充実と改善	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.4 (2.7)	○昨年と比較し、0.3ポイント低下。 ○情報機器・環境整備体制の維持・更新が重要。 ○情報手段や情報環境の適切かつ効果的な活用に向けた取組みを継続実施。	定期的かつ効果的な綱紀保持研修を。校務の効率化に向けた環境の整備と工夫ある取り組みを。 ・昨今は、他校も自校のPRに力を入れて中、誠意ならではの特徴を前面に出して、生徒獲得に力を入れて欲しい。 ・学校運営の課題が教職員に共通理解できていないように感じる。明確に課題を提示して、解決して欲しい。	C
		校内での適切な健康・衛生管理	4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	2.5 (2.6)	○昨年と比較し0.1ポイント低下。 ○安心・健康管理維持は重要課題 ○引き続き迅速で適切な対応、効果的な対策を講じていく必要がある。		
校務運営の積極的な改善		4. 実践できた。 3. ほぼ実践できた。 2. あまり実践できなかった。 1. 実践できなかった。	1.7 (なし)	○極めて低い。 ○状況変化の中で、改善への取組みを継続実施。 ○課題の集約と対策は今後の重要課題。			